

鳥獣の被害対策

イノシシの増減傾向を探る！

～出猟記録と捕獲個体の年齢の分析～

研究の背景・目的

島根県では農林作物被害の軽減を図るため、H14年度からイノシシの「特定鳥獣保護管理計画」を施行して、これまで生息数の低減（捕獲目標15,000頭/年）と各種の被害対策に取り組んできました。近年の被害発生は減少傾向にあるものの、依然としてイノシシは鳥獣被害の過半を占めています。そのため、「特定鳥獣保護管理計画」の施行による生息数や農林作物被害の低減への効果についてのモニタリング調査を実施します。

研究方法

- ①狩猟者の狩猟期間中の捕獲活動である「出猟記録」を分析して、県下のイノシシ生息数の増減傾向を推測します。
- ②飯南町で捕獲されたイノシシの年齢、性別、捕獲方法等を調査して、捕獲実態や出生時期を分析します。
- ③飯南町に設置された広域防護柵の管理状況と被害防止の効果を調査します。
- ④飼育イノシシを用いて、防除ネットやシカ用グレーチングの侵入防止効果を試験します。

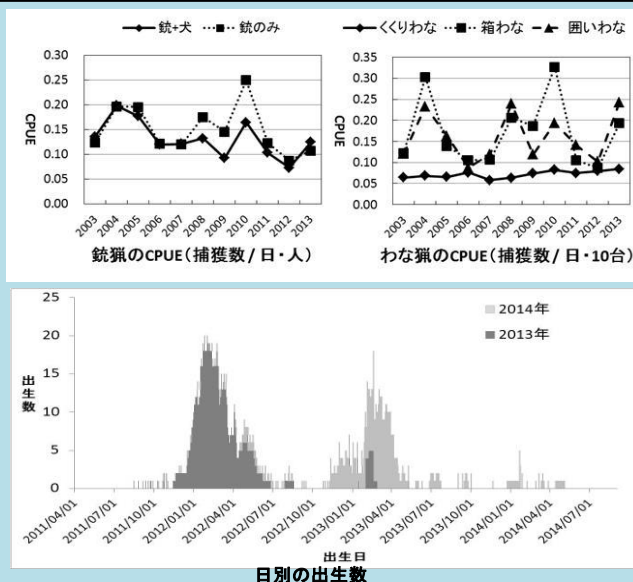
研究状況

①H25年度の狩猟による捕獲数は、前年と比較して1,500頭も多い5,480頭でした。くりわなの捕獲効率（CPUE：生息数の指標）は、これまでほとんど増減がないことからイノシシの生息数もほぼ横ばい傾向で推移していると推測しました(図)。また、箱わなと囲いわなの捕獲効率が高かった理由は、コナラが凶作であった影響と考えました。

②高頻度出産期間は、3月中旬～8月中旬と前年よりも1か月早い時期にずれていました(図)。これは、前年秋季と当年春季の平均気温20℃以上の日数によって、メスの発情時期がずれたためと考えられました。

③いずれの集落も被害の発生し易い場所に重点的に分断して設置していました。ほとんどの広域柵は、点検頻度は少なく、雑草の繁茂による倒壊(図)や軟弱な接地面からの侵入跡を認めました。今後、広域柵の管理体制について、協議を行う必要があります。

④防除ネットはいずれも完全には侵入を防げないことが示唆されました(図)。また、グレーチングは、初めは歩行を躊躇しましたが、高さを変えても短時間で歩行することを確認しました。ただし、人慣れ度の高い個体での試験であったことから、今後人慣れ度の低い個体による追試験を行う予定です。



雑草の繁茂により倒れた柵



侵入を試みるイノシシ

研究成果の活用・今後の研究計画

各種のモニタリング調査の結果は、島根県有害鳥獣被害推進協議会や行政機関へ提供して、捕獲目標数の設定や被害対策などの施策へ反映させ、また次期の「特定鳥獣保護管理計画」の策定にも役立てます。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 小宮 将大 (こみや まさひろ)

問い合わせ先 : 0854-76-3819

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : イノシシの保護管理と被害対策のモニタリング調査 (研究期間 : H24～28)

